

■ 節電行動計画

法人名	Meiji Seika ファルマ株式会社
施設名	横浜研究所

使用制限率	目標電力削減率	節電実績
85%	15%	

節電対策メニュー

日常における節電対策の推進

		実施 予定	実行 確認
照明	使用していないエリアは消灯を徹底する。	○	
	白熱灯を電球形蛍光灯やLED照明に交換する。	○	
空調	事務所等の温度を28 とする（または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28 より若干引き上げる）。	○	
	外気取入量を調整することで換気用動力や熱負荷を低減する。	×	
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。	○	
節電啓発	節電担当者を決め、責任者（社長・工場長）と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。	○	
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。	○	
その他	自家発電装置を活用する。	△	
	蓄熱システム・NAS電池を活用する（夜間電力を有効活用する）。	○	
	デマンド監視装置の設定を目標使用電力以下とし、警報発生時には予め決めておいた節電対策を実施する。	○	
	設備・機器のメンテナンスを適切かつ定期的を実施することでロスを低減する。	○	
	冷凍冷蔵設備の設定温度を確認し、品質に影響がでない範囲で適切な温度を設定する。	○	

生産を中心とした事業活動の休日等への一部シフト

他時期へ	夏期の生産活動を最小限に抑えるため、5月・10月・11月に生産活動の一部をシフトする。		
	工場設備のシャットダウンメンテナンス期間を夏期に実施する。		
土日へ	事業活動の一部を土日へシフトする（輪番操業を導入し拠点ごとに平日に休日を設けるなど）。		
早朝・夜間へ	早朝出勤による午後半休を導入する。		
	午後から夜間の出勤による午前半休を導入する。		
外部製造	一部の製品について、西日本又は海外の他社工場へ委託する。		
	一部の製品について、西日本又は海外の自社工場での製造に切り替える。		

その他（自由記述欄）

その他	20. 待機電力のカット，コンセントプラグを抜くことにより電力を削減する。	○	
	21. 照度過多範囲の蛍光灯を間引くことにより電力を削減する。	○	
	22. 自動販売機，給茶機の集約化により電力を削減する。	○	
	23. 超低温フリーザ，プレハブ冷蔵庫の集約化により電力を削減し、かつ空調負荷を削減する。	○	
	24. 冷水製造装置を夜間運転し、昼間のピークカットを行う。	○	